

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編集発行人
佐々木 琢 磨
印刷所
(株)東北プリント



第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会
(令和4年10月6日～10日 種牛の部：鹿児島県霧島市 肉牛の部：鹿児島県南九州市)

もくじ

CONTENTS

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の結果について……………2-3

令和4年度宮城県総合畜産共進会(肉豚の部)盛会裡に終了…3

畜産生産資材価格高騰対策緊急経営支援事業について…4

高病原性鳥インフルエンザの発生状況と一斉点検について…5

令和4年度家畜人工授精に係る台帳検査の受検をお願いします…6

令和4年度家畜商講習会を開催します……………6

早めの保温対策を!……………7

令和4年度上半期生乳需給状況について……………8

令和5年度宮城県農業大学校入校生を募集(一般入校試験後期)…9

農業大学校性の抱負……………9

畜試便り……………10

衛生便り……………11

New face……………11

第71回東北畜産学会 宮城大会が盛況のうちに終わる…12

価格安定対策事業の発動状況について……………12



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の結果について

宮城県農政部畜産課
(第12回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会)

令和4年10月6日(木)から10日(月)までの5日間、第12回全国和牛能力共進会(以下、「全共」)鹿児島大会が「和牛新時代 地域かがやく和牛力」をテーマに、種牛の部が霧島市、肉牛の部が南九州市の会場で開催されました。和牛改良における過去の礎と将来の展望の架け橋となる全共は、能力と斉一性の向上、時代が求める和牛改良の素材や地域系統の発掘等を狙いとした最も重要な和牛イベントです。宮城県では、生産者をはじめ関係機関が日頃から出品に向けて飼養管理や調教等を励行し、7月9日に種牛の部、8月24日に肉牛の部の代表牛が決定しました。

本県代表牛の成績は、9区分のうち6区分で優等賞を獲得しました。種牛能力と産肉能力を総合的に評価される第6区総合評価群では、種牛群が優等賞9席、肉牛群が優等賞4席で総合6席及び九州農政局長賞を受賞しました。この区は、地域の改良の中核を担う種雄牛の産子を実証展示し、各地域の改良成果を確認することが狙いであり、上位賞獲得は、今後の本県繁殖雌牛集団の強化に大きく貢献するものと期待されます。

地域の特色ある雌牛集団としての第4区繁殖雌牛群及び優良雌牛系統の地域保留の成果としての第5区高等登録群で優等賞8席、改良組合活動の活性化や地域生産基盤の安定を目指す第3区若雌の2で優等賞7席、和牛生産意欲や将来の人材育成を目的とした高校及び農業大学校の部特別区で優等賞15席を獲得しました。また、強豪揃いで洗練された高い肥育技術を競う第8区去勢肥育牛で優等賞28席を獲得しました。

一方で、今大会から新設され、和牛肉の新たな価値観の醸成や定着を目的とし、口溶けや風味、食味性に関与するMUFA(一価不飽和脂肪酸)割合について審査の重み付けを強化した第7区脂肪の質評価群では、MUFAにばらつきが見られ、残念ながら上位入賞には至らなかったなど新たな課題も現れました。

審査会場以外では、県PRブースや銘柄牛ブースにおいて、県有種雄牛や「仙台牛」の紹介及び試食を展開しました。訪れたお客さんからは、「茂福久のパンフレットが欲しい」、「銘柄牛の中で仙台牛が一番美味しかった」、「仙台牛はどこで買えるのか?」等の意見をいただき、県有種雄牛や仙台牛が全国でも注目されていることが確認できました。

本大会の成果と課題を十分に検証し、今後の育種改良に活かすとともに、生産者や関係団体と連携し、第13回全共北海道大会では宮城県らしい牛群を披露することができる様、引きつづき出品対策や支援を検討してまいります。



種牛の部 審査会場の風景
(第6区(種牛群) 個体審査)



第6区(総合評価群) 優等賞6席
九州農政局長賞 栗原和牛育種組合

畜産生産資材価格高騰対策緊急経営支援事業について

宮城県農政部畜産課

新型コロナウイルス感染症による影響や不安定な国際情勢を背景に、燃料や配合飼料等の生産資材の高騰が続いており、畜産経営に深刻な影響を及ぼしています。

このため、短期的な激変緩和措置として、県独自の取り組みとして緊急的に掛かり増し経費の一部を支援することにより、国産飼料の活用、飼料増産対策や飼料給与方法の見直し、疾病予防による損失減少などの生産性向上対策を進め、資材高騰の影響を緩和できる経営体質への転換を支援します。

1 配合飼料高騰対策

(1) 事業概要

配合飼料価格の高騰による畜産経営への影響を緩和するため、令和4年度以降も経営を継続し、配合飼料高騰対策に取り組む、配合飼料価格安定制度に加入する畜産経営体に対して、飼料購入費の一部を支援します。

(2) 交付対象数量

県内で飼養している家畜に給与する飼料のうち、令和4年度第1四半期から第3四半期の配合飼料価格安定制度の補てん数量に応じて交付

(3) 補助単価 (上限2,500円/トン)

補助金 = 第1～第3四半期ごとの補てん対象数量 × 1 × 補てん単価 × 2

※1 配合飼料価格安定制度の契約数量又は購入数量のいずれか低い数量

※2 (各四半期の配合飼料平均価格 - 配合飼料価格安定制度補てん金 - 令和2年度配合飼料平均価格) × 1/4 以内

(4) 事業実施主体

- ・一般社団法人 宮城県配合飼料価格安定基金協会
- ・J A全農北日本くみあい飼料株式会社
- ・みやぎの酪農農業協同組合
- ・宮城県酪農農業協同組合

(5) 取組主体

- ・配合飼料価格安定制度に加入している方
- ・令和4年度以降も経営を継続する方
- ・飼料高騰対策に取り組む意思がある方

2 光熱動力費高騰対策

(1) 事業概要

資材高騰の影響を緩和できる経営体質への転換を支援するため、令和4年度以降も経営を継続し、飼料価格高騰対策に取り組む畜産経営体のうち、他畜種に比べ光熱動力費の負担が大きい酪農経営に対し、掛かり増し経費の一部を助成します。

(2) 助成対象頭数、助成単価

令和4年8月1日に飼養している経産牛1頭当たり4,000円

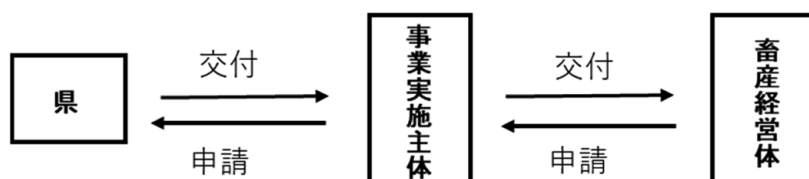
(3) 事業実施主体

- ・みやぎの酪農農業協同組合
- ・宮城県酪農農業協同組合
- ・全国農業協同組合連合会宮城県本部

(4) 取組主体

- ・令和4年度以降も経営を継続する方
- ・飼料高騰対策に取り組む意思のある方

【事業の流れ】



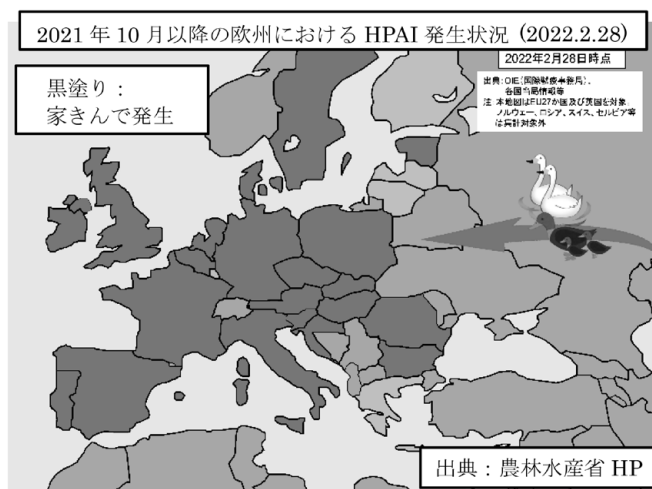
高病原性鳥インフルエンザの発生状況と一斉点検について

宮城県農政部家畜防疫対策室

昨シーズン(2021-2022年)国内の養鶏場における高病原性鳥インフルエンザの発生は、令和3年11月から令和4年5月までに12道県25事例31農場で確認され、合計約189万羽の家きん類が殺処分の対象となりました。一昨年の約987万羽が殺処分された過去最大規模のシーズン(2020-2021年)に比べると、昨シーズンの流行規模は5分の1程度に抑えられたものの、ほぼ同時期の異なる亜型(H5N8及びH5N1)のウイルスの国内侵入や北日本におけるウイルス感染の長期化(5月中旬まで)、エミュー牧場での連続発生、さらには北海道における野生哺乳動物からのウイルス検出など、これまでにない流行の特徴が認められました。

世界的に見ると、昨シーズンの欧州においてはフランス、イタリア、ハンガリー、ポーランドなどにおいて、H5N1亜型のウイルスによる本病が多発しており、過去最大規模の発生が報告されています。また、北米においても2022年2月に米国インディアナ州で、家きん類への感染が確認されて以来、米国39州、カナダ9州に広がって、殺処分羽数は計4,000万羽を超え、2015年以降で最悪の状況となっています。

一方、我が国においては、すでに家きん飼養農場で6事例(岡山県、北海道、香川県、茨城県)の発生が確認されています(11月7日時点)。本県栗原市においても死亡マガンからの高病原性鳥インフルエンザウイルス検出が2事例確認されており、昨シーズンに続いて、本県の家きん飼養農場に対するウイルス侵入リスクは極めて高いと考えられます。



発生件数	2021-2022 シーズン ※0内は1月以降発生		2020-2021 シーズン ※0内は1月以降発生	
	フランス	1416	(3)	508
英国	124	(9)	21	(0)
イタリア	317	(0)	3	(0)
ハンガリー	290	(0)	7	(0)
スペイン	31	(0)	0	(0)
アイルランド	6	(0)	1	(0)
米国	410	(31)	0	(0)
カナダ	112	(8)	0	(0)
ポーランド	95	(1)	357	(1)
ドイツ	78	(7)	231	(0)
韓国	47	(0)	109	(0)

出典：農林水産省疫学調査報告書

このような状況の中、家きんを飼養する方は、本病の発生を防止するため飼養衛生管理基準の遵守が重要です。以下に示す7項目について、特に徹底していただきますようお願いします。

- ①衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒
- ②鶏舎に立ち入る者の手指消毒
- ③衛生管理区域専用の衣服及び靴の使用
- ④鶏舎ごとの専用の衣服及び靴の使用
- ⑤衛生管理区域に立ち入る車両消毒
- ⑥ねずみ及び害虫の駆除
- ⑦野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕

なお、これら7項目については、自身の経営を守るためにも、今年度も10月から来年5月まで、毎月、自己点検していただき、点検結果について最寄りの家畜保健衛生所まで報告していただきますようお願いします。

(衛生安全班 佐藤 浩庸)

令和4年度家畜人工授精に係る台帳検査の受検をお願いします

宮城県農政部畜産課

今年度も家畜人工授精に係る各種台帳・証明書の作成が適正に実施されているかを確認させていただくため、年明け1月から台帳検査を実施しますので、適切に書類を整備したうえで受検の協力をお願いいたします。詳細につきましては、各家畜保健衛生所・畜産振興部よりお知らせいたします。

1 対象者

獣医師・家畜人工授精師、自家授精者、家畜人工授精所開設者

2 確認帳簿

①獣医師・家畜人工授精師	授精証明書・人工授精簿一体型の帳簿（授精証明書（写し）、人工授精簿）
②家畜授精所開設者	譲渡等記録簿 ※開設者が①に該当する場合は①の帳簿も必要です。

3 報告書類（※該当するもののみ提出）

①獣医師・家畜人工授精師、自家授精者	条例様式第4号（精液）、条例様式第5号（受精卵）
②家畜人工授精所開設者	法様式第28号、法様式第29号 ※①の報告書類も必要です。

4 その他

報告に係る事務負担を軽減するため宮城県家畜改良増殖法施行条例を改正し、令和5年次報告（令和6年1月提出）から報告様式及び報告義務者が変更になります。

- ・報告様式：法の様式に準じた内容
- ・報告義務者：精液・受精卵を管理する者（家畜人工授精所開設者を除く）

（生産振興班 杉本 達郎）

令和4年度家畜商講習会を開催します

宮城県農政部畜産課

宮城県では、家畜の取引の業務に従事しようとする者を対象に、隔年で家畜商講習会を開催しています。今年度は以下の通り開催いたします。

日時：令和4年12月15日(木) 午前8時30分から午後5時15分まで
12月16日(金) 午前9時から午後5時まで

場所：宮城県自治会館203会議室（宮城県仙台市青葉区上杉1丁目2-3）

提出書類：【全員】講習会受講申請書（3,700円分の宮城県収入証紙を貼付）

【獣医師、家畜人工授精師のみ】講習時間の特例措置適用申請書及び免許証の写し
（様式は宮城県HPへ掲載しております。）

提出期限：令和4年11月18日（金）

提出先：お近くの家畜保健衛生所又は地方振興事務所畜産振興部

当日の受付時間や持ち物など、詳細については以下のURLをご確認いただくか、宮城県農政部畜産課企画管理班へお問い合わせください。

URL：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tikusanka/0928-katikusyokousyuukai-r4.html>

TEL：022-211-2851

（企画管理班 佐藤 綾香）

早めの保温対策を！

NOSAI宮城

11月になり、過ごしやすい季節になりました。地域によっては、朝晩かなり冷え込む所もあるのではないのでしょうか。これからの季節、気を付けたいのが子牛の保温対策です。

牛は寒さに強いと言われますが、子牛は例外です。哺乳中の子牛が快適に過ごせる気温は13～25℃です。13℃を下回ると、体温を維持するためにエネルギーを余計に消費するようになり、発育や増体にも影響が出てきます。また、体温を維持できる限界の温度を臨界温度といいます。哺乳子牛の下限臨界温度は5℃、出生直後の新生子牛では9℃と言われています。この気温を下回ると、起立不能、震え、意識混濁などの症状を示し、死亡に至る場合もあります。

宮城県（仙台市）の11月の平均気温は8.9℃、平均最低気温は4.6℃です。つまり、子牛にとっては、既に体温を維持することが厳しい環境になっているということです。子牛の保温対策としては、ジャケットやヒーターの他、ネックウォーマーもお勧めです。

牛舎全体の保温対策も必要ですが、牛舎を閉め切ると風邪が蔓延しやすくなってしまいうため、換気の良い状態を保ちつつ、冷たい風が当たらないような環境づくりをしましょう。例年、11月中頃から子牛、特に新生子牛の低体温症の診療や死亡事故が増え始めます。先述の通り、11月の気温は新生子牛の臨界温度を下回っているため、何も対策をしなければ当然のことと言えます。特に出生直後は体が濡れているため、気化熱で体温が奪われ、さらに厳しい状態です。また、難産で生まれた子牛は正常産の子牛に比べて体温が低下しやすいため、しっかり乾かすことが重要です。せっかく生まれた子牛が寒さで死亡することが無いよう、ぜひ保温対策を見直してみてください。

子牛の防寒対策の例



ヒーター



ネックウォーマー

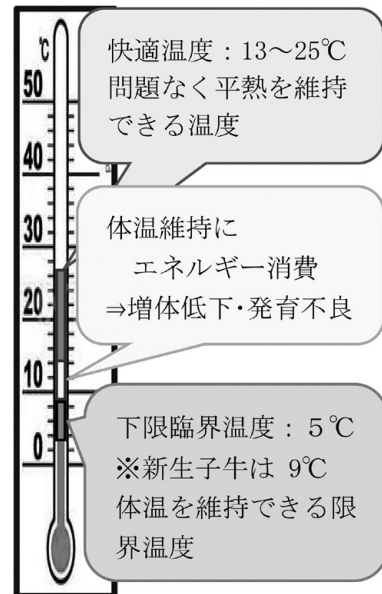


乾いた牛床と敷料



ジャケット

子牛の快適温度と臨界温度



(第二事業部 家畜課 長江 達哉)

令和4年度上半期生乳需給状況について

東北生乳販売農業協同組合連合会宮城支所 みやぎの酪農農業協同組合

新型コロナウイルス感染症拡大によるインバウンド消費の落ち込み等により、生乳需給の緩和が続いている中、入口対策として生産者団体は令和4年3月より生乳生産抑制対策に取組み、また、出口対策として生産者および乳業メーカーの拠出金と国からの支援を受け、令和4年4月より乳製品在庫削減対策に取り組んでおります。

また、国際情勢を背景とした配合・粗飼料等の生産資材や燃料価格の高騰により酪農経営が厳しさを増している中、東北生乳販売農業協同組合連合会において乳価の期中改定交渉が実施され、11月から飲用向け・醗酵向け乳価が10円上がることで決着しました。

しかし、今後乳製品価格の値上げによりさらに消費が低迷することが懸念されております。

このような状況の中で、全国の令和4年4月～9月迄の受託乳量は3,630,489^トン、前年同期比99.9%。地域別では北海道は前年同期比100.5%、都府県は前年同期比99.1%で推移しております。

(1) 全国

全国生乳受託実績

(単位：ト、%)

地区名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
北海道	347,691	102.9	361,848	101.7	347,447	100.1	352,934	100.5	347,289	99.9	330,843	98.0	2,088,053	100.5
都府県	271,060	99.6	277,689	99.3	259,037	99.4	253,678	100.2	242,377	97.8	238,596	98.2	1,542,436	99.1
全国	618,751	101.5	639,537	100.6	606,485	99.8	606,611	100.4	589,666	99.0	569,438	98.1	3,630,489	99.9

(2) 東北

4月～9月迄の受託乳量は252,389^トン、前年同期比99.7%と前年並みで推移しております。

東北生乳受託販売実績

(単位：ト、%)

県	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
青森	6,413.0	107.9	6,673.0	107.0	6,418.0	108.2	6,443.0	107.5	6,368.0	108.1	6,155.0	105.5	38,471.0	107.4
岩手	15,853.0	97.2	16,339.0	96.8	15,459.0	96.5	15,630.0	98.3	15,476.0	98.5	14,977.0	98.0	93,733.0	97.5
宮城	9,283.0	99.4	9,504.0	99.0	8,944.0	98.1	8,984.0	100.4	8,741.0	98.6	8,387.0	97.8	53,843.0	98.9
秋田	1,936.0	98.2	1,977.0	95.5	1,852.0	95.8	1,867.0	97.8	1,850.0	101.3	1,806.0	97.7	11,289.0	97.6
山形	4,419.0	103.4	4,556.0	103.3	4,191.0	100.4	4,209.0	104.8	3,938.0	101.7	3,804.0	103.5	25,117.0	102.9
福島	5,209.0	99.9	5,340.0	97.3	5,040.0	98.0	4,925.0	97.8	4,775.0	94.7	4,649.0	95.1	29,937.0	97.2
計	43,113.0	100.2	44,389.0	99.3	41,904.0	99.0	42,057.0	100.6	41,147.0	99.9	39,778.0	99.2	252,389.0	99.7

(3) 用途別販売実績

東北の用途別販売実績は、4月～9月の飲用牛乳向け177,801^トン、前年同期比97.4%、特定乳製品向け28,543^トン、前年同期比109.8%となっております。

その他の用途については、はっ酵乳等向け42,256^トン、前年同期比103.4%、チーズ向け825^トン、前年同期比100.4%、生クリーム等向け2,965^トン、前年同期比101.6%となっております。

東北用途別販売実績

(単位：ト、%)

地区名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
総受託販売乳量	43,113.0	100.2	44,390.0	99.3	41,905.0	99.0	42,057.0	100.6	41,147.0	99.8	39,778.0	99.2	252,390.0	99.7
飲用牛乳向け	28,935.0	98.5	30,892.0	96.7	30,002.0	95.0	29,441.0	96.0	28,654.0	99.1	29,877.0	99.3	177,801.0	97.4
(うち学乳向け)	(1,851,861.5)	91.7	(2,413,168.9)	100.2	(2,755,256.2)	96.9	(1,730,676.3)	94.9	(824,522.9)	103.7	(2,414,017.7)	92.2	11,989,503.5	95.9
はっ酵乳等向け	7,221.0	99.0	7,418.0	102.6	7,229.0	101.3	7,205.0	108.6	6,813.0	102.9	6,370.0	106.8	42,256.0	103.4
特定乳製品向け	6,301.0	109.0	5,487.0	112.2	4,029.0	132.4	4,680.0	121.2	5,070.0	102.1	2,976.0	85.9	28,543.0	109.8
生クリーム等向け	502.0	107.8	440.0	91.3	511.0	118.9	606.0	119.2	481.0	87.7	425.0	87.9	2,965.0	101.6
チーズ向け	154.0	116.6	153.0	102.9	134.0	97.3	125.0	89.9	129.0	86.4	130.0	113.3	825.0	100.4

(4) 宮城県

4月～9月の受託乳量は53,842^トン、前年同期比98.9%となっております。

宮城県生乳受託販売実績

(単位：ト、%)

地区名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
みやぎの	5,624	102.0	5,796	102.8	5,465	101.3	5,487	104.7	5,356	101.4	5,120	101.0	32,848	102.2
全農宮城	1,383	92.5	1,408	92.4	1,310	91.9	1,303	93.5	1,236	91.8	1,186	89.4	7,827	92.0
宮城酪農	2,275	97.7	2,300	94.4	2,168	94.4	2,193	94.8	2,148	95.9	2,081	95.4	13,167	95.4
宮城県	9,282	99.4	9,504	99.0	8,943	98.1	8,983	100.4	8,740	98.6	8,387	97.8	53,842	98.9

(販売課 日野 裕治)

令和5年度 宮城県農業大学校入校生を募集 (一般入校試験後期)

宮城県農業大学校

本校は、農業の近代化と経済社会の発展に対応できる、高度な知識・技術を身につけ優れた農業経営者と農村地域の指導者を育成することをねらいとして、昭和52年4月に「宮城県農業実践大学校」として設立され、平成20年7月には専修学校の機能を付加し、平成21年4月に校名を「宮城県農業大学校」に変更しました。

下記により、令和5年度の一般入校試験(後期)が行われますので、多数の出願をお願いします。

記

◇募集人員(推薦入校試験・一般入校試験(前期)分を含む)

畜産学部15名、水田経営学部15名、園芸学部15名、アグリビジネス学部10名

◇応募資格 高等学校卒業者(令和5年3月卒業見込みの者を含む)又はこれと同等以上の学力があると認められ、本県農業の振興に貢献する意欲がある者

◇募集期間 令和5年1月23日(月)～令和5年2月6日(月)(当日消印有効)

◇試験日時 令和5年2月22日(水)午前8時45分～

◇合格発表日 令和5年2月28日(火)午前10時

◇試験場所 宮城県農業大学校名取教場

◇試験科目 ①筆記試験 国語総合(60分)、数学I(60分)、小論文(60分800字)

②面接試験 個人面接(15分程度)

(注)定員に達した学部は、一般入校試験(後期)を実施しないことがあります。一般入校試験(後期)の募集人数は令和5年1月上旬にホームページ上に掲載します。

◇専修学校のメリット

①卒業時に「専門士(農業専門課程)」の称号が付与されます。

②卒業生は、4年制大学の3年次への編入学試験の受験が可能となります。

(編入試験実施の有無については、希望する大学に確認してください。)

◇奨学金制度

①本校を卒業後、宮城県内での就農を予定されている方は、公益社団法人みやぎ農業振興公社奨学金の申請ができます。

②本校を卒業後、就農を予定されている方は、国の事業である就農準備資金の申請ができます。

③独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度が利用できます。

*上記①～③の奨学金等の採択に当たっては一定の要件を満たす必要があります。

*詳しくは、宮城県農業大学校教務部学生班・教務班(電話022-383-8138)までお問い合わせください。

〈農業大学校生の抱負〉

畜産に携わるものとして

宮城県農業大学校畜産学部

2学年 千葉 大世



私は登米市石越の出身で家では父がきゅうりを栽培しています。家が園芸農家でありながら幼少期から近所の和牛繁殖農家の牛を毎日触っていたことで、畜産業に興味を持つようになりました。畜産業を学ぶため農業高校に入学し、1年時に座学をとおして養豚に興味を持ち高校3年間は主に養豚について勉強していました。さらに、養豚についての学びを深めるため農業大学校に進学しました。しかし、入学して牛舎での実習をするたびに牛への興味が大きくなり専攻を肉牛に変えて、牛について一から勉強し直しました。座学で学び、実習で体験し、わからないことは積極的に質問し牛への理解を深めています。今年は、全国和牛能力共進会が開催されたため、その大会を楽しむためにも牛の事を理解する必要があると思います。宮城県畜産試験場の出品候補

牛の手入れの手伝いをさせていただき、牛と毎日対峙することで小さな変化や体の不調に気づくための観察眼を鍛えています。牛体の手入れや体測の補助、調教の補助などをおして牛の各個体の特徴や性格を知り、牛に合った飼養管理をすることが必要であると感じました。現在、私は2級認定牛削蹄師の資格取得に向けて日々、座学と実習を頑張っています。牛の蹄は、第二の心臓と言われるくらいに重要な部位なので毎日気が抜けない授業ではありますが、日々成長できるように取り組んでいます。4月からは、牛の胚培養等を行っている会社に就職します。今まで勉強してきた事を掘り下げた内容になり、難しくなるとは思いますが優れた胚を生産できるように頑張りたいと思います。そして、今後の畜産業に少しでも貢献できるような存在になりたいと思います。

〈畜試便り〉

子実用トウモロコシ収穫実演会開催報告
～新稲作研究会令和4年度現地中間検討会（宮城県下）～

宮城県畜産試験場

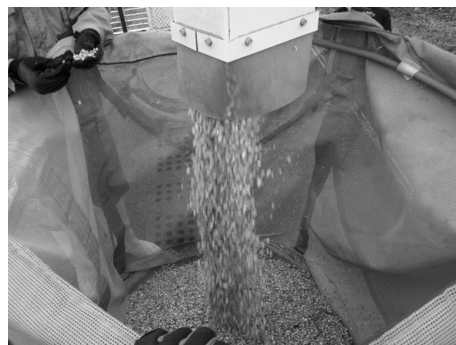
畜産試験場（以下、畜試）では令和4年度、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 新稲作研究会（以下、新稲作研究会）との受託契約により、遠田郡涌谷町にて生産者の協力を得ながら「子実用トウモロコシの水田における栽培技術の確立」を研究課題として子実用トウモロコシの現地栽培実証試験を実施しています。このことに関し、令和4年9月7日・8日、生産振興に取り組む涌谷町・涌谷地域農業再生協議会・新稲作研究会との共催で、現地中間検討会を開催しました。初日の室内検討会では約150名（オンライン参加含む）、二日目の現地検討会では約80名の方にご参加いただき、盛会裏に終了いたしました。

7日の中間成績検討では新稲作研究会・望月龍也委員を座長に、はじめに農研機構東北農業研究センター・篠遠義哉研究員より水田輪作に子実用トウモロコシを導入する意義についてご講演いただきました。米需要減・米価下落による転作作物として労働生産性の高さから注目度の高い子実用トウモロコシは、飼料利用するためのインフラ整備と売り先確保が必要で、耕種側・畜産側ともに利益の得られる耕畜連携の取り組みにより、持続的な地域農業の発展のためにも地域一丸での産地化を目指すべき目標として結ばれていました。

講演に引き続いて、①「水田転作における子実用トウモロコシの湿害対策による良品安定生産の実証」（長野県畜産試験場飼料環境部・伊藤達也主任研究員）、②「子実用トウモロコシの水田における栽培技術の確立」（宮城県畜産試験場草地飼料部・田中孝太郎技師）、③「子実用トウモロコシの省力化技術の実証」（山口県農林総合技術センター畜産技術部・佐藤正道専門研究員）、④「飼料作物栽培におけるロボットトラクタを用いた省力化の検討」（宮城県畜産試験場・黒木邦彦主任研究員）の今年度子実用トウモロコシに関して試験課題を実施している4県の担当者から中間成績発表がありました。最後に関連情報提供として、ヤンマーアグリジャパン（株）農機推進部・渡瀬修梧氏より子実用トウモロコシ栽培の機械化体系、中型コンバインの開発の経緯および子実用トウモロコシを収穫するためのリールヘッダーや専用のコーンヘッダーについてご説明いただきました。

8日は、試験にご協力いただいている農業生産法人AgriFrontW様のほ場にて、現地検討会として収穫実演を行いました。ほ場にはコーンヘッダーを装着した大型・中型の汎用コンバイン、残屑処理に用いるフレールモア等を展示し、畜試から栽培試験の取り組み概要について、涌谷町から町内での転作の取り組み・子実用トウモロコシの栽培状況、またヤンマーアグリジャパン（株）から関連機械と収穫作業の説明があったのち、収穫実演を行いました。収穫実演では、コーンヘッダーによる刈り取りと、フレールモアによるほ場に残った茎葉の残渣処理を実演し、コンバインから排出されるトウモロコシ子実を見学することもできました。

水田の省力管理対策・飼料価格高騰対策等耕畜連携のキー作物となる子実用トウモロコシは、令和4年度県内において作付面積を大きく拡大させています。畜試でも、今後のさらなる普及拡大に向けて技術情報を提供していく予定です。



(草地飼料部 田中 孝太郎)

〈衛生便り〉

コロナウイルスが原因となる家畜の病気について

宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により注目されているコロナウイルスですが、家畜にもコロナウイルスが原因の病気があります。これらは他の動物種には感染せず、特定の動物種だけで発生が見られます。また、感染力が高く、農場内での流行が早く広がり被害が大きいのが特徴です。

①牛コロナウイルス病

子牛の下痢症、成牛の冬季下痢や呼吸器症状を引き起こし、とくに乳牛では泌乳量が大幅に低下し経済的被害が大きくなります。子牛、成牛ともに寒い期間に多く発生しますが、1年中みられます。発生が多い寒冷期前にあらかじめワクチンを接種することで症状の緩和が期待できます。子牛での発生予防は、分娩前の母牛にワクチンを接種し、初乳を介して子牛へ免疫を与えます。

②流行性下痢（PED）【届出伝染病】

豚やいのししに、水様性下痢や嘔吐などの急性胃腸炎症状がみられます。哺乳豚で死亡率が高く、日齢が進むと死亡率は低下します。成豚では感染しても症状が出ないため（不顕性感染）、気づかないうちに農場内で感染が拡大し、子豚で大流行することがあります。ワクチンは母豚へ接種し、母乳を介して哺乳豚に免疫を与えて発生を予防します。

③鶏伝染性気管支炎（IB）【届出伝染病】

呼吸器症状や産卵低下などの産卵障害、腎炎がみられます。季節に関係なく発生があります。対策はワクチン接種ですが、流行株との抗原性の違いで十分な効果が得られないこともあります。

家畜は自分で身を守ることができません。ワクチンだけで予防するのは限界があります。飼養者が農場の消毒や飼養環境の改善、衛生管理を徹底して、病原体を農場内に入れないように対策を行うことが重要です。

(畜産振興部 矢島 りさ)

〈New face〉

一般社団法人宮城県畜産協会 家畜衛生課

河村 達彦



はじめまして。令和4年4月から宮城県畜産協会家畜衛生課に配属となりました河村達彦（かわむらたつひこ）と申します。

出身は福島県郡山市で、今年の3月に宮城大学を卒業しました。大学では動物免疫学研究室に所属しており、卒業論文は「大腸炎モデルマウスを用いたレジスタントスターチの抗炎症効果の検討」というテーマで執筆しました。マウスの飼育によって自分の時間が制限されたり、思ったような実験の結果が得られなかったりと生き物を扱う難しさを痛感しました。これまで畜産というものに接する機会がほとんどなかったのですが、大学での学びや経験を活かせる仕事がしたいと考えていたので、この度宮城県畜産協会に働かせて頂くことになりとても嬉しく思います。

現在は予防接種の月報入力や負担金関係の業務を担当しています。入社当初は畜産に関する用語や機関の働きなど、初めて知ることばかりで毎日新しい言葉を覚えるような日々でした。また、業務に取り組む中で、何気なく食べている畜産物の背景に農家以外にも多くの人たちが関わっていること、その一部に自分がいることを実感しました。今はまだ不慣れなことが多く、先輩方に助けて頂いてばかりですが、今後はさまざまな業務に取り組み、知識や経験を積んで自分に出来ることを増やしていきたいと思っています。まだまだ至らないところばかりだと思いますが、宮城県の畜産業に貢献できるよう日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

第71回東北畜産学会 宮城大会が盛況のうちに終わる

宮城県畜産試験場

去る8月29～30日の2日間にわたって第71回東北畜産学会宮城大会（大会長：宮城大学井上達志教授、主催：東北畜産学会）が、東北大学新青葉山キャンパスで開催されました。

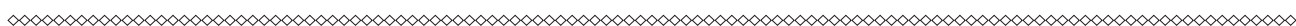
今回は、現地及びWebの併用形式で実施し、2日間で延べ157名の参加がありました。

1日目は、学会功労賞を受賞された(株)渥美牛群管理サービスの渥美孝雄代表取締役による講演（演題：「宮城県における牛受精卵移植技術、特に生体卵子吸引-体外受精技術の現場段階における普及推進」）及び学術賞を受賞された農研機構東北農業研究センターの澄野英子上席研究員による講演（演題：「寒冷地における高栄養飼料資源の栄養特性の解明および利用技術の確立」）が実施されました。続いて「スマート畜産の現状について」をテーマに公開シンポジウムが開催され、宮城大学の森田明教授の基調講演、北里大の鍋西久准教授の講演、加美町で酪農経営を行っている(株)猪股牧場の猪股聡士代表及びデザミス(株)の菊池遼介氏からスマート畜産の事例の紹介がなされました。

2日目は、22題の研究結果が発表され、内容も大学における実験動物を使った基礎研究から公設試験研究機関による家畜を使った試験研究まで多岐にわたり、実りのある内容の議論が展開されました。また、東北地域の若手研究者育成のため、若い研究者の発表の中から優秀発表賞4題が選出され表彰されました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点から大部分がWeb形式での実施でしたが次回以降は通常開催が実施できることを祈念いたします。

(酪農肉牛部 菊地 武)



価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価 (単位：円)

販売月	肉専用種（宮城県）	交雑種（全国）	乳用種（全国）
令和4年7月（概算払）	—	(29,910.8円)	(34,380.2円)
8月（概算払）	(78,273.2円)	(41,755.7円)	(43,320.8円)

※令和4年7月分以降の概算払いは、配合飼料価格安定制度の発動状況を加味し、算定額から7,000円を差し引いた額の振り込みとなります。（6月までは6,000円）

◎肉用子牛生産者補給金（子牛補給金）の交付金単価 令和4年度第2四半期

	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
補給金単価	—	—	—	14,500円	—

◎肉豚経営安定交付金（豚マルキン）の交付金単価 令和4年度第1～2四半期 交付なし